

2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [宇都宮市立岡本北小学校] 担当教諭名 [竹元 志穂] (6年1・2組 50名)
 相手国・地域 [イスラエル]
 海外学校名 [Yonatan Junior High School] 担当教諭名 [Claudio Cembal]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	夢に向かって	25
	外国語活動	I like my town. ～宇都宮の魅力発信プロジェクト～	8
	図工	ヨナタン中学校のみんなと一緒に壁画を描こう	5
	特別活動(児童会)	届けよう, 服のチカラプロジェクト	2

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Equality ～世界が平等になりますように～
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	真ん中の大きな天秤は、平等を表している。手をつないでいる男の子と女の子は、男女平等を意味している。下に描かれている地球は、世界中のみんなが平等になりますようにとの願いが込められている。両脇には、平和の象徴である鳩を描いた。虹は、イスラエルと日本をつなぐ架け橋である。背景の青とピンクの市松模様は、日本の伝統文化である市松模様と、オリンピック・パラリンピックのキャラクターをイメージした。お互いの国の良さを知ること、「お互いのことをもっと知りたい！」という気持ちをもつことができ、その思いが平和な世界につながるのではないかと、この思いから、背景には、日本やイスラエルの有名なものや、大切にしているものを描いた。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> テレビ電話交流を通して、アニメが好きというお互いの共通点を知り、相手をより身近に感じていた。 SDGsに関する学びや、難民ワークショップを通して、世界のことを、プラス面、マイナス面の両方の側面から知り、追究しながら学ぶ姿勢が育った。また、その学びを、子どもたちなりの方法で、全校児童へ発信することができた。 「世界のために自分たちに出来ることをしたい！」という思いを、壁画作成を通して実現できた。 壁画作成を通して、お互いの意見を尊重し合い、みんなが納得するまで話し合うことの大切さを学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 壁画作成に至るまでの、お互いの国での子どもたちの学びや思いに、差があったように思う。共通の学びのテーマをより明確にし、お互いが同じレベルで学び合っていけるように工夫したい。 スケジュール調整、時数の確保が難しかった。相手校とは、学期や長期休暇の時期が異なるため、早めに予定を調整し、相手とこまめに連絡を取り、定期的にスケジュールを見直しながら、進める必要がある。 今後は様々な教科の中で、SDGs を取り入れながら、授業を行いたい。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<p>[子どもたちの学びのふりかえりより抜粋]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難民に対して、「かわいそう」と思っていること自体が、かわいそうであると思うようになった。 ・相手のことをイメージで決めつけるのではなく、正しく理解しようとするのが大切であると思った。 ・日本に住む難民の人たちも、ぼくたちと同じように、夢や目標をもっていて、幸せに暮らしているのだと思った。 ・世界の人々や、身近な人々を助けたいという気持ちをもつことができた。 ・多数決で簡単に決めるのではなく、みんなが納得するまで話し合うことの大切さを学んだ。 	<p>教師自身が成長した点は二つある。一つ目は、アートマイルの学びを、学年だけでなく、学校全体へ発信したことだ。児童会活動との関連を図り、いじめゼロ強調月間には、朝会の時間に、難民の子どもたちを題材とした劇を披露したり、難民について、クイズ形式で伝えたりする機会を設けることができた。他学年の子どもたちや先生方にも、関心をもってもらえた。二つ目は、文化や習慣の異なる相手と思いを伝え合ったり、スケジュールを調整したりする力だ。言語が大きな壁となったが、相手に伝わるまで、何度もメッセージのやり取りを行った。文化や考え方の異なる相手と共に、何かに取り組むことはとても難しいが、私たち教員にとって、必要不可欠な力であると思う。</p>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	5月	○イスラエルを知ろう！ インターネットや書籍を用いて、イスラエルの文化を知る。	・食や服装、有名な建物など、一人一人の興味関心に合わせて、調べ学習を進めることで、イスラエルに対してマイナスなイメージを抱いていた児童も、プラスのイメージをもてるようになった。	総合4
	7月	○I like my town.～宇都宮の魅力発信プロジェクト～ 食、自然、スポーツ、施設、レジャー、イベントの6つの班に分かれて、宇都宮の魅力を伝えるためのPRムービーを作成。フォーラムでヨナタン中学校の子どもたちへ発信する。	・「日本語が通じない相手に伝える」という目的をもつことで、英語を使う必然性と相手意識が生まれ、質問を入れながら紹介文を考えたり、ジェスチャーを交えながら伝えたりする姿が見られた。	外国語6
	9月	○ヨナタン中学校のみんなとのテレビ電話交流 お互いの自己紹介をしたり、一緒にマイムマイムを踊ったりする。	・相手の話を最後まで聞いたり、ゆっくり話したり、写真や絵などを用いたりするなど、伝え方を工夫していた。日本のアニメはイスラエルでも有名であることを知った子どもたちは、お互いをより身近に感じていた。	外国語1
共有 テーマ学習	6月	○SDGsについて知ろう！ すごろくやクイズを使いながら、保護者と共にSDGsについて学ぶ。	・ゲーム性のある活動で、楽しく学ぶことができていた。また、保護者と共に学ぶことで、家庭で、更に学びを深める児童もいた。	総合2
	9月	○難民ワークショップ ・難民について知っていること・知りたいこと ・難民ってどんな人？ ・日本にいる難民について考えよう	・授業の最初、「難民って聞いて、どんなイメージ？」と聞くと、ほとんどの子が「かわいそう」と答えた。しかし、学びを深めていく中で、「かわいそうだと思うこと自体がかわいそうである」という意見に変化していった。	総合8

	9月 ～ 1月	<p>○届けよう、服のチカラプロジェクト (UNIQLO・GU 主催)</p> <p>難民ワークショップでの学びを、クイズや劇で全校児童へ発信し、その後、難民キャンプの子どもたちのために、服を集める活動を行った。</p>	<p>・昨年度、タンザニアの子どもたちとの交流を通して、子どもたちは、「世界のために自分たちにできることをしたい！」という思いをもって。4月の始業式の日、一人の児童が、服のチカラプロジェクトについての新聞の切り抜きをもってきたことをきっかけに、学校全体での取り組みへとつながった。難民ワークショップの学びをもとに、自分たちで劇やクイズを考え、全校児童へ発信し、2,105 着もの服を集めることができた。</p>	特活2 (児童会)
融合 メッセージ作成	10月	<p>○学びの振り返り&壁画に込めたい 思いを話し合う</p> <p>これまでの学びから、現在の問題点、2030年までに実現したいことを書きだし、それまでに自分たちにできることを考える。2030年までに実現したい社会の姿をもとに、壁画に込めたい思いをまとめる。</p>	<p>・これまでの学びでは、難民に関することしか扱ってこなかったが、性別、年齢、障害の有無、貧困など、様々な視点から“平等”について考える姿が見られた。バックキャスティング(目指すべき未来を設定し、今の問題点を考え、目標を達成するためにできることを考える方法)を用いることで、今の自分にできること、数年後の自分にできること、将来の夢と関連させてできることを考えていた。</p>	総合3
		<p>○岡北小、ヨナタン中、それぞれが 壁画に込めたい思いを伝え合う</p> <p>フォーラムを使って、お互いの学びを伝え合う。日本側の子どもたちの学びは日本語で行い、それを教員が翻訳して、フォーラムに投稿した。</p>	<p>・岡北小の子どもたちが発信した思いに対して、ヨナタン中の子どもたちも、自分たちの身近にある“不平等”について考え、それらをなくしていくために何をすべきか、意見を伝えてくれた。</p>	総合2
創造 壁画制作	11月	<p>○壁画に込めたい思いをもとに、壁 画のデザインを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡北小、ヨナタン中の子どもたち一人一人が、壁画のデザインを考える。(秋休み中の宿題) ・岡北小、ヨナタン中の代表を決める。 ・いくつかの代表の中から、下描き実行委員会が壁画のデザインを作成する。 ・話し合いを重ね、ヨナタン中と意見交換をしながら、みんなの思いが入ったデザインになるようにする。 	<p>・できる限り、全員の思いが込められた壁画になるよう、全員の描き出しに共通して描かれているものや、共通しているメッセージを取り上げ、下描きを作成していた。みんなが納得するデザインとなるよう、一人一人が自分の意見を伝え、お互いの意見を尊重し合っていた。</p>	総合4
	12月	<p>○下描き、色塗りを進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下描き実行委員、色塗り実行委員、近況報告実行委員の3つに分かれて作業を進める。 	<p>・一人一人に役割を与え、計画を立てさせることで、全員が絵の作成に関わることができた。自分が好きな色を塗るのではなく、その都度、「この色で大丈夫？」と相談し合いながら進めていた。</p>	図工5

	1月	<p>○日本側の壁画完成！年賀状と共に、イスラエルのヨナタン中学校へ発送</p> <p>ヘブライ語や英語を使って、年賀状を作成。日本のお正月の文化もイラストで添えた。</p> <p>○イスラエル側の壁画作成</p>	<p>・子どもたちには、「あけましておめでとう！」という言葉のみ、ヘブライ語で伝えたが、それ以外にも、子どもたち自身が伝えたい思いを、ヘブライ語に翻訳して、年賀状に書き写していた。今年の干支であるねずみや、お餅、富士山、鶴、初日の出のイラストを描き、日本の文化を伝えようとしていた。</p>	外国語1
評価 振り返り 自己評価	2月	<p>○イスラエルより、完成した壁画が日本へ到着！</p> <p>完成した作品は卒業式の日に表示し鑑賞を行った。</p>	<p>・絵に込められた一つ一つに意味を考へながら、作品を味わっていた。イスラエル側の背景に描かれていた、イスラエルの有名なものなどについて、興味を示していた。</p>	総合2

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価（5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった）

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	宇都宮の魅力発信プロジェクトにおいて、PRムービーを作るために、宇都宮について調べ学習を進める中で、これまで知らなかった宇都宮の良さを発見することができた。
異文化を理解する力	5	難民一人一人のエピソードを読む活動を通して、自分たちのイメージで人を判断するのではなく、相手のことを正しく理解しようとするのが大切であることに気付いた。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	5	低学年にも伝わるよう、劇を取り入れたり、聞き手に興味をもってもらえるようクイズを取り入れたり、相手に応じて、情報発信の仕方を工夫していた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	PRムービーの作成や、テレビ電話交流の際には、ジェスチャーや写真等を用いながら、相手に伝わる工夫を考えてコミュニケーションを図っていた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	難民ワークショップを通して、学びが始まる前の難民に対するイメージを、学びの最後にもう一度振り返ったことで、一人一人の難民に対するイメージに、変容が見られた。
主体的に考え行動する力	5	服のチカラプロジェクトを始めるにあたり、自分たちで企画書をつくり、役割分担などを考えていた。服を集めるための箱やポスター作りなど、自分たちで考え、行動にうつすことができていた。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	イスラエルの子どもたちが描いた壁画のデザインと、それらに込められた思いをしっかりと受け取り、下描きに生かしていた。下描きが出来上がったら、イスラエルの子どもたちにも共有し、意見をもらっていた。デザインを決めるまでの過程において、話し合い活動を大切にしていた。
思いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	壁画のデザインを決める際には、多数決で簡単に決めるのではなく、一人一人の思いを大切にしながら話し合いを進めていた。1回の話し合いでは全員が納得しなかったため、一人一人が意見を整理した上で、もう一度話し合いの機会を設けた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	3	今回は、卒業式の日に表示するのみの振り返りとなってしまったため、十分な振り返りができなかった。イスラエルの子どもたちが絵に込めた思いを教員が翻訳し、模造紙にまとめて子どもたちへ伝えた。